

会社概要

平成29年3月31日現在

商号 デリカフーズ株式会社
 英文社名 DELICA FOODS CO., LTD.
 設立 平成15年4月1日
 創業 昭和54年10月6日
 所在地 〒121-0073
 東京都足立区六町四丁目12番12号
 資本金 1,377,113千円
 従業員数(連結) 378名(他、平均臨時雇用者数1,792名)

役員

代表取締役社長	大崎 善保	常勤監査役	野村 五郎
取締役(未開発最高役員)	小笠原真清	社外監査役	田中 清隆
専務取締役	杉 和也	社外監査役	森田 雅也
取締役	小林 憲司		
取締役会長	館本 勲武		
社外取締役	尾崎 弘之		

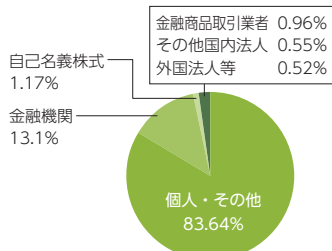
会計監査人 仰星監査法人

株式状況

平成29年3月31日現在

発行済株式総数 7,436,000株
 株主総数 12,799名

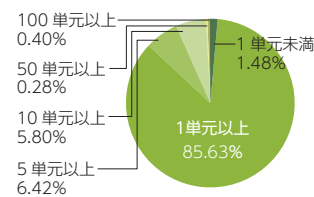
[株主分布状況]



大株主

館本 勲武	1,080,400株
館本 篤志	1,019,200株
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	289,700株
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	271,500株
大崎 善保	125,000株
小笠原真清	107,900株
デリカフーズグループ 従業員持株会	107,700株
岡本 高宏	100,100株
杉 和也	100,000株
野村 五郎	99,400株

[所有株式数別分布状況]



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金受領株主確定日 3月31日
 中間配当金受領株主確定日 9月30日
 定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL.0120-232-711 (通話無料)

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所(証券コード3392)
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.delica.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)


【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

“Fresh & Speedy”
 デリカフーズ株式会社
 〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



【お問い合わせ】
 TEL 03(3858)1037
 FAX 03(5851)1056
<http://www.delica.co.jp/>

デリカフーズ 
 IR最新情報はHPをご覧ください。



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。



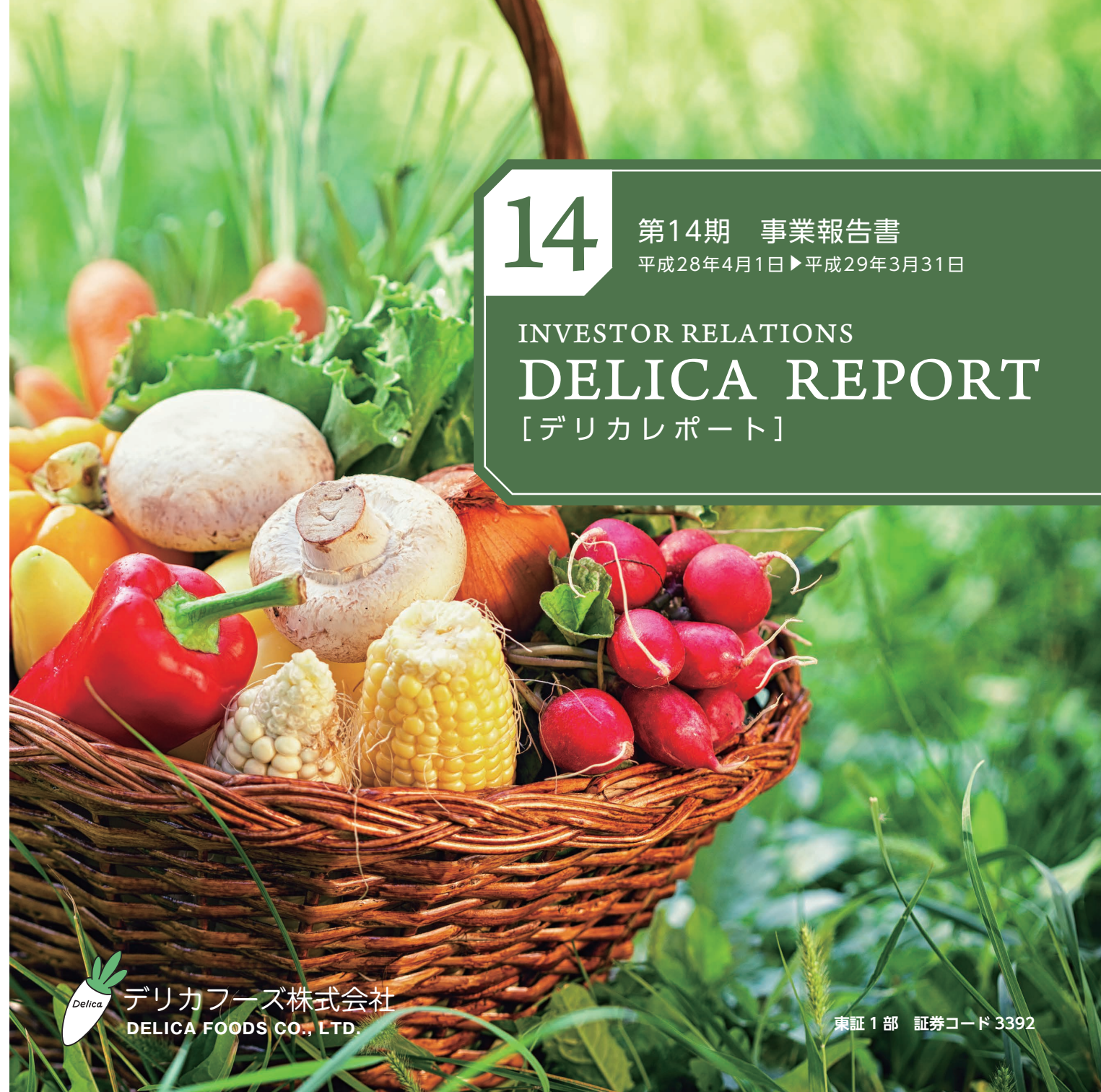
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

14

第14期 事業報告書

平成28年4月1日▶平成29年3月31日

INVESTOR RELATIONS
DELICA REPORT
 [デリカレポート]



デリカフーズ株式会社
 DELICA FOODS CO., LTD.

東証1部 証券コード3392

TOP MESSAGE

おおざき よしやす

大崎善保

代表取締役社長

東京デリカフーズ株式会社 代表取締役社長
名古屋デリカフーズ株式会社 取締役
株式会社メディカル青果物研究所 代表取締役社長



この度デリカフーズ株式会社代表取締役社長に就任いたしました、大崎善保でございます。株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

私は1997年 25歳の時にアルバイトからデリカフーズに入社致しました。それから約20年、大変多くのことを学ばせていただき、この度の社長拝命に至っております。

創業者である館本会長をはじめ、多くの諸先輩方が築き上げてこられた「志」・「理念」・「事業」をしっかりと継承し、社の発展ならびに株主様のご期待に応えられるよう専心努力いたす所存でございます。株主の皆様におかれましては引き続きのご指導・ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

当社グループを取り巻く当連結会計年度の経営環境といたしましては、国内経済では景況感が好転したものの、企業の設備投資や個人消費の低迷が続く等、景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。青果物流通業界においても、天候不順による収穫量の大幅な減少や品質の著しい悪化により、1年を通じて非常に厳しい経営環境が続いておりました。このような状況のなか当社では、当連結会計年度が中期経営計画の最終年度に該当することから、業績向上のための様々な施策を進めてまいりました。

特に「新規事業・新規マーケットへの参入」としまして、真空加熱野菜の製造・販売を西東京FSセンター、名古屋かの里工場、奈良FSセンターにて開始し、既に多くの外食産業から高い評価をいただいております。

一方「食の安全・安心の追求」につきましては、当連結会計年度中に新たに2工場がISO22000認証を取得いたしました。この結果、10工場中7工場で認証取得が完了し、今期は西東京FSセンターでの取得を目指しております。また、全国の工場に専任の「衛生品質トレーナー」を配置し、生産環境の確認や作業者の教育訓練を行うなど、ハードとソフトの両面から食の安全・安心を追求し、同業他社との差別化に取り組んでおります。

各種経営施策の結果、当連結会計年度における売上高は34,559百万円（前期比9.5%増）となりました。利益につきましては、野菜価格の高騰・品質悪化の影響が長期化したことに加え、西東京FSセンターにおいて最新の生産設備・衛生設備を導入したことにより、営業利益は557百万円（前期比18.4%減）、経常利益は605百万円（前期比14.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は329百万円（前期比17.7%減）となりました。

今後も事業発展に尽力し、農業の発展と人々の健康増進に貢献してまいります。株主の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

売上高は7年連続過去最高を計上しましたが、天候不順等の影響により減益となりました。

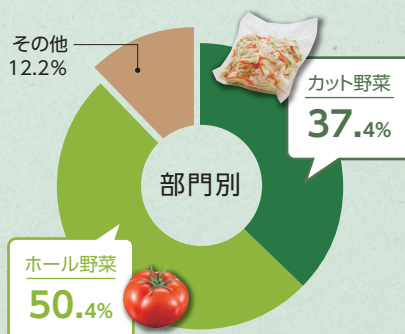
お客様への積極的なメニュー提案や、新たな事業の柱である真空加熱野菜への高い評価による新規顧客の獲得が順調に伸展した結果、売上高は過去最高となりました。

一方、相次ぐ台風の上陸や記録的な日照不足による調達価格の高騰、また新工場の立ち上げ費用の発生により、営業利益・経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期と比べて減少いたしました。

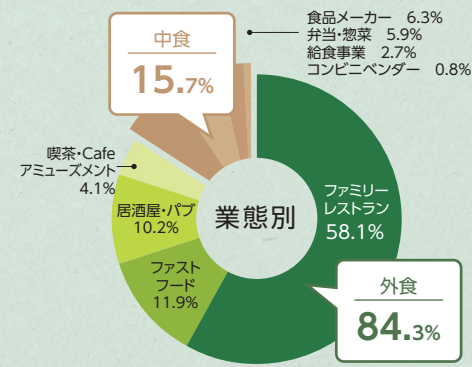
当連結会計年度の業績

売上高	34,559百万円 (前期比9.5%増)
営業利益	557百万円 (前期比18.4%減)
経常利益	605百万円 (前期比14.5%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	329百万円 (前期比17.7%減)
1株当たり当期純利益	44.94円
総資産利益率 (ROA)	1.87%
株主資本利益率 (ROE)	4.79%

販売構成比



カットなどの加工をしていない野菜のことをホール野菜、用途ごとに加工されている状態の野菜をカット野菜と呼んでいます。第三の基軸商品である真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。



外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、全体の8割以上が外食業界に向けた売上となっております。
※ファミリーレストランには、イタリア料理、中華料理、和食等の業態も含まれております。

取締役のご紹介



取締役
(未来開発最高役員)
おがさわら ますみ
小笠原 真清

デザイナーフーズ株式会社
代表取締役社長



専務取締役
すぎ かずや
杉 和也

大阪デリカフーズ株式会社
代表取締役社長



取締役
こばやし けんじ
小林 憲司

東京デリカフーズ株式会社
取締役副社長



取締役会長
たちもと いさたけ
館本 勲武



社外取締役
おおざき ひろゆき
尾崎 弘之

TOP INTERVIEW

平成29年2月20日、代表取締役社長に大崎善保が就任いたしました。アルバイトとして入社して以来デリカフーズに携わってきた大崎が、自身の経歴や会社のビジョンについてお答えします。



新任社長の
素顔に迫る

PROFILE

大崎 善保
昭和46年9月28日生（45歳）

平成 2年4月 小原株式会社
平成 6年4月 (有)エキモート代表取締役社長
平成 9年2月 デリカフーズ株式会社
(現名古屋デリカフーズ株式会社) 入社
平成 16年4月 当社転籍
平成 17年1月 東京デリカフーズ株式会社 転籍
平成 18年6月 同社取締役
平成 19年4月 同社常務取締役
平成 19年6月 当社取締役
平成 20年6月 (株)メディカル青果物研究所 取締役
平成 21年4月 東京デリカフーズ株式会社 取締役社長
平成 23年4月 同社代表取締役社長(現任)
平成 25年4月 (株)メディカル青果物研究所
代表取締役社長(現任)
平成 25年4月 当社常務取締役
平成 28年4月 名古屋デリカフーズ株式会社
取締役(現任)



社長の強みは 何ですか？

私はアルバイトから入社ということもあり、製造部門・出荷部門・業務部門などあらゆる現場を末端の一作業員から取り組んできたことが今では一番の財産となっています。当時は施設も労働環境も行き届いておらず、まさしく3Kの塊の中、無休での作業や徹夜を繰り返し、現場力や改善力、和の大切さを学ばせていただきました。その後も現場の立て直しや新工場の開設、システム開発など大変多くの経験をさせていただきました。営業時代にはお客様からお叱りやご指導をいただくこともありましたが、産地提案やメニュー提案など今では当社の武器となっている「提案営業」もお客様のご意見から創り上げてきました。お客様の声、現場の声を吸い上げ実行に移す。社員・従業員の和を作り強いリーダーシップで皆を引っ張る。そして若さ。それが私の強みだと考えています。

現在の時代背景と 会社の動きの ポイントは？

近年、様々な業界で人手不足が慢性化しています。外食産業では、できるだけ簡便な調理法で本格的な料理を提供したいとのニーズが高まっており、当社の第三の商品として「真空加熱野菜」の量産を昨年より開始しました。また、人手不足は物流業界でも同様の問題となっており、2年前に物流子会社を設立。今後は全国に営業所を展開し、自社物流比率を3割まで高める計画を進めています。

デリカフーズとの 出会いは？

若くしてアパレル関係の会社を興し孤軍奮闘していた頃、偶然のご縁から当社の創業者である館本会長と出会い、会社経営における「哲学」「理念」「志」の大切さを教えていただきました。また、日本における農業の大切さ、デリカフーズが担う役割などをお聞きし「是非この方のもとで自分自身を磨きたい!」との強い思いからデリカフーズへの入社を決意しました。今振り返ると「あの偶然の出会いが何故得られたのか」と、考えさせられます。

今後の研究開発は？

今後も研究開発には力を入れていきたいと考えています。デリカフーズが長年続けてきた野菜の中身研究は国内唯

一のビックデータとなっています。高齢化や食と健康に対する意識が高まる中、野菜が持つ力を解明し、野菜の価値と摂取量を高めていくことが日本の農業の発展、国民の健康増進へ繋がると思っています。当社グループの研究は国策にも合致しており、今後更なる展開が期待できます。

将来のビジョンと 夢は？

まずはデリカフーズ独自の「青果物流通インフラ」を全国で手がけることです。これまではお客様へ納品する網の目の物流網を構築してきました。今後はグループ間を結ぶ幹線網、産地や集荷場を繋ぐ調達物流網を構築し、業界全体が乗り入れ可能な「青果物流通インフラ」として、お客様・業界に貢献していきたいと考えています。

また、実業・インフラ・研究開発が一体となることで当社グループの企業価値・競争力は更に高まります。自社農場・海外展開・BtoC参入など、当社が果たすべき事業領域も広がります。

デリカフーズグループは、無限の可能性を秘めた夢あるグループだと思っています。皆様と共に夢を抱き、それを共に叶えていくのが私の夢です。

最後に目指す 社長像は？

社員・従業員からは常に「頼れる兄貴分」、お客様・お取引先様からはビジョンを共に叶える「パートナー」、株主様・ステークスホルダーの皆様からは夢やビジョンを共有し「信頼できる経営者」、その様に評価される社長を目指します。現在45歳と若く、まだまだ未熟な経営者ではありますが、長期を見据えエネルギーに、果敢に挑戦する経営スタイルでこれからも精進していきたいと考えております。また、創業者や先の方々、諸先輩方の教えを正しく継承し、次世代に繋いでいきたいと思っております。今後も引き続きご指導・ご支援のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



売上高
(百万円)
50000

デリカフーズの これまでとこれから

平成29年3月に第二次中期経営計画が終了し、さらなる成長のために当グループでは第三次中期経営計画を策定いたしました。ここでは、これまでのデリカフーズの歩みと売上高・経常利益の推移を振り返ります。

創業
1979
(昭和54年)

1979(昭和54)年
●名古屋にて創業。

1984(昭和59)年
●東京都足立区に東京デリカフーズ株式会社を設立。

1990(平成2)年
●大阪府茨木市に大阪デリカフーズ株式会社を設立。

2003(平成15)年
●持株会社としてデリカフーズ株式会社を設立。初代社長に館本 勲武が就任。

主なNEWS&トピックス

2004(平成16)年
●デザイナーフーズ株式会社を完全子会社化。



2005(平成17)年
●東京証券取引所市場第2部に上場。



ターニングポイント
2010(平成22)年
●東京FSセンターを開設。その後の飛躍のきっかけとなる。
[東京デリカフーズ株式会社]



2012(平成24)年
●九州事業所を開設。
[東京デリカフーズ株式会社]
●大田センターを開設。
[東京デリカフーズ株式会社]
●初の中期経営計画を発表。



2013(平成25)年
●東京第二FSセンターを開設。
[東京デリカフーズ株式会社]
●株主優待スタート
●第二代社長に小笠原 真清が就任。



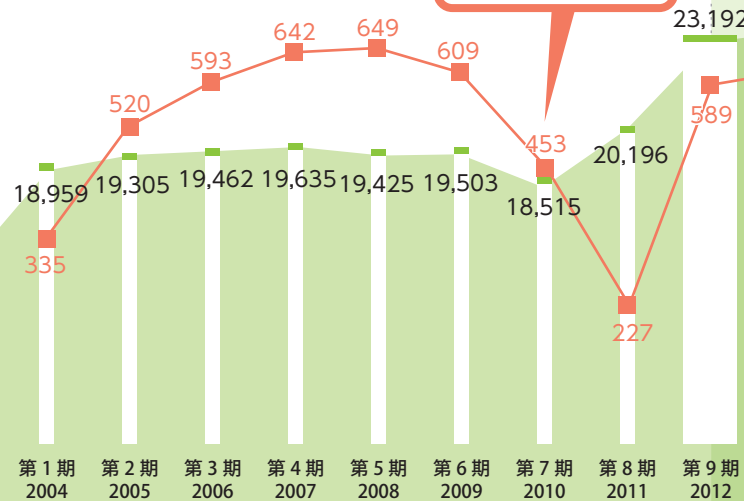
2014(平成26)年
●三郷センターを開設。
[東京デリカフーズ株式会社]
●仙台事業所を開設。
[東京デリカフーズ株式会社]
●物流子会社エフエスロジスティックス株式会社を設立。
●東京証券取引所市場第1部に指定。



2015(平成27)年
●奈良FSセンターを開設。
[大阪デリカフーズ株式会社]



2016(平成28)年
●西東京FSセンターを開設。
[東京デリカフーズ株式会社]



THE SECOND FOUNDING STAGE 2017

第一次中期経営計画の振り返り

拠点拡大による売上増加や提案型営業の推進、原価低減活動など、経営施策を着実に推進したことで、計画の数値を達成いたしました。

計画値
連結売上高
270億円
連結経常利益
7.5億円

達成

第二次中期経営計画の振り返り

建設費高騰の影響で予定していた2か所の新工場開設が延期・遅延したこと、また天候不順の影響により、計画は未達成となりました。

計画値
連結売上高
350億円
連結経常利益
10.5億円

未達成

Next Change2020

第三次中期経営計画

2017(平成29)年
●第三代社長に大崎善保が就任。

第四次中期経営計画予定

50,000

計画値

経常利益
(百万円)

1500

1,400

計画値

1000

500

0

40,000

計画値

1,100

計画値

34,559

全国
14拠点
達成

31,573

28,042

26,619

24,224

23,192

売上高 (百万円)

経常利益 (百万円)

第三次
中期経営計画

Next Change 2020
次なる変化

近年の人手不足により、カット野菜・真空加熱野菜の需要は増加。また、人件費の上昇や原料価格の不安定化などの課題に対しても柔軟に対応すべく、第三次中期経営計画を策定いたしました。

500億円企業に向け全社一丸となり
強固な基盤を構築し、成長を実現します。

経営基盤の改革

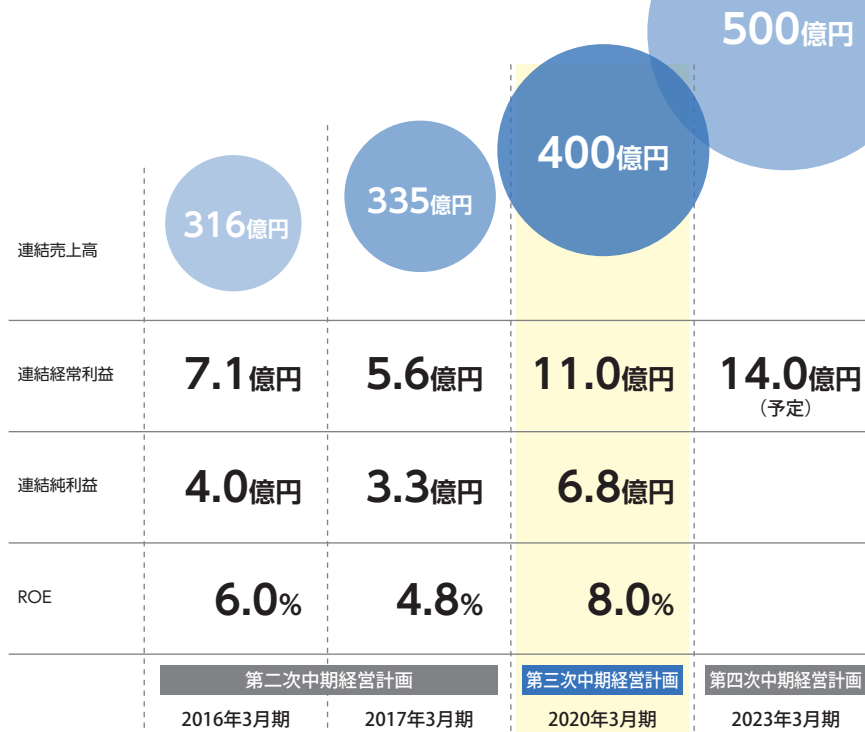
- グループ機能の最適化による収益構造の立て直し
- 事業会社の統合によるグループシナジーの追求
- 経営人材の育成および人材基盤の強化

成長基盤の構築

- 物流事業の拡大によるグループインフラの整備および物流事業への参入
- 商品力および対応力の強化による事業領域の拡大
- 垂直統合型事業への展開

研究開発部門の強化

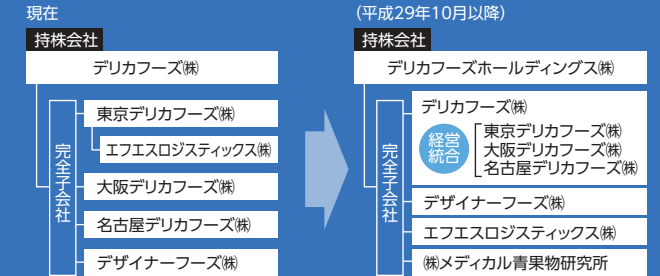
- 事業をサポートする研究開発
- 研究開発を最大限に活かした提案営業への連携
- 次世代に向けた「農・食・健康」を繋ぐ研究開発の推進



デリカフーズを大きく変える
グループ統合によるシナジー効果

組織力UP!!

従来は各エリアで営業活動を行っていましたが、全国展開されるお客様に寄り添い戦略的な提案を実施すべく、営業を一本化。また、仕入業務に関しても、グループ全体で調達するスケールメリットを発揮することが見込まれます。

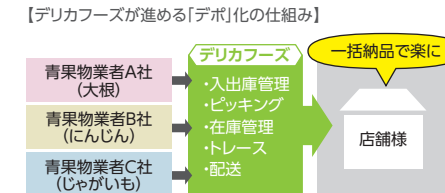
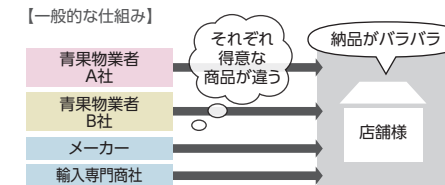


販売

デポ化を全国展開し
顧客対応力を強化

需要が拡大しているカット野菜や真空加熱野菜、個食対応商品の積極展開を行うほか、当社が推進する「デポ化※」を全国に展開してまいります。また、工場1ヶ所、物流センター2ヶ所の新設も予定しています。

※デポ→顧客の青果物配送センターとしての機能を受託する仕組み。



物流

名古屋・大阪・神奈川
に営業所を設置

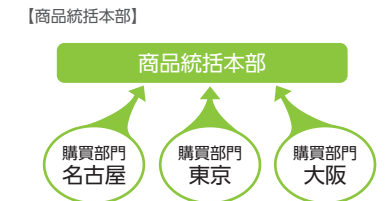
物流に関しては、自社物流の比率が東京エリアで2割まで到達しました。今後は子会社であるエフエスロジスティクス株式会社の営業所を名古屋・大阪・神奈川に開設予定。2017年4月からは東京・名古屋間で幹線便のテスト運航を開始します。



調達

「商品統括本部」を設置し
新たな産地を開拓

経営統合により、「商品統括本部」を新設。調達量と価格の安定化を目指します。また、リスクヘッジを目的とした国内・海外産地を開拓・育成し、特に海外においては天候リスク等に備え、調達する品目の種類を増やす予定です。





「野菜の生産者」と「食の提供者」をつなぎ、 農と健康で循環型社会に貢献しています！

野菜の仕入・加工・物流をワンストップで担うデリカフーズは、青果物の専門商社として24時間365日、お客様に対応しています。契約農家など各地から仕入れた野菜を加工し、コールドチェーンを通じて新鮮な状態でお届けしながら、日本の農業の発展と国民の健康増進に貢献してまいります。

野菜の生産者



契約産地など各地で生産される新鮮で高品質な野菜を安定的に仕入れます。契約産地は年々広がっており、研究機関や行政との共同開発で中身評価や土壌改良などにも取り組んでいます。



デリカフーズ

仕入れた野菜を加工し、鮮度を保ったまま全国約1万店舗にお届けしています。高いカット技術・パッケージ技術を有する加工工場は、一方で食品安全にも細心の注意を払っています。

仕入れ

受注

野菜の加工

ピッキング
(仕分)

配送

研究開発



デリカフーズでは野菜の中身分析を実施しています。「デリカスコア」という独自の評価方法を用いて野菜の新たな価値創造に取り組んでいます。

エフエスロジスティックス(株) (物流)



スーパーコールドチェーンを実現するために野菜の生理に合わせたチルド配送網で、新鮮な野菜を供給しています。

カット野菜

真空加熱野菜

ホール野菜

食の提供者

メニュー提案
提案営業



ファミリーレストラン・居酒屋・ファストフードなどの「外食」、コンビニエンス・惣菜・お弁当などの「中食」、社員食堂などがお客様。素材や産地、野菜を主役としたメニューなど様々な提案を行っています。

全国に広がる
デリカの
Network

ISO22000 ...ISO22000取得済

FSSC22000 ...FSSC22000取得済

持株会社 **デリカフーズ(株)** 東京都足立区

東京デリカフーズ(株) 東京都足立区

- 東京FSセンター(東京都足立区) ISO22000 FSSC22000
- 東京第二FSセンター(東京都足立区) ISO22000 FSSC22000
- 保木間センター(東京都足立区)
- 大田センター(東京都大田区)
- 西東京FSセンター(東京都昭島市)
- 神奈川事業所(神奈川県大和市) ISO22000
- 三郷センター(埼玉県三郷市)
- 仙台事業所(宮城県仙台市)
- 福島工場(福島県伊達市)
- 九州事業所(福岡県古賀市)

名古屋デリカフーズ(株) 愛知県弥富市

- 子宝工場(愛知県弥富市) ISO22000
- かの里工場(愛知県名古屋市中区)

大阪デリカフーズ(株) 大阪府茨木市

- 茨木工場(大阪府茨木市) ISO22000
- 兵庫工場(兵庫県加古郡) ISO22000
- 奈良FSセンター(奈良県磯城郡) ISO22000

デザイナーフーズ(株) 愛知県名古屋市

エフエスロジスティックス(株) 東京都足立区

- 東京営業所
- 名古屋営業所(2017年4月オープン)

※この他、全国に協力企業があります。

4~5°CをKEEP

スーパーコールドチェーン

徹底した温度管理で野菜の鮮度を保持します。工場に野菜が入ってきてから、商品としてお客様に届くまで、すべての作業が4~5°C設定の工場内で行われます。



連結貸借対照表 (要旨)

単位: 千円

資産の部	第13期	第14期
	当連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
流動資産		
現金及び預金	5,045,385	4,948,188
売掛金	3,419,582	3,551,304
商品及び製品	116,765	127,392
仕掛品	5,926	8,173
原材料及び貯蔵品	46,874	60,502
繰延税金資産	55,079	53,184
その他	263,909	180,858
貸倒引当金	△6,818	△3,034
流動資産合計	8,946,706	8,926,569
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	2,830,443	3,601,753
土地	3,249,504	3,249,504
その他 (純額)	1,611,059	1,414,338
有形固定資産合計	7,691,007	8,265,596
無形固定資産		
その他	46,086	40,490
無形固定資産合計	46,086	40,490
投資その他の資産		
投資有価証券	292,037	313,001
繰延税金資産	7,569	7,838
その他	208,448	512,442
貸倒引当金	△8,134	△3,142
投資その他の資産合計	499,921	830,140
固定資産合計 ①	8,237,015	9,136,227
資産合計	17,183,721	18,062,797

	第13期	第14期
1株当たり当期純利益 (円)	54.67	44.94
1株当たり純資産額 (円)	935.72	965.36
自己資本 (百万円)	6,856	7,094
自己資本比率 (%)	39.9	39.3

単位: 千円

負債の部	第13期	第14期
	当連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
流動負債		
買掛金	1,771,120	1,870,791
短期借入金	588,000	490,000
1年内返済予定の長期借入金	769,661	1,000,020
未払法人税等	123,605	118,672
未払金	1,016,775	1,061,852
その他	212,273	223,553
流動負債合計	4,481,436	4,764,890
固定負債		
長期借入金	5,535,316	5,729,133
繰延税金負債	13,634	14,390
その他	293,360	458,347
固定負債合計	5,842,310	6,201,871
負債合計	10,323,747	10,966,761
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,377,113	1,377,113
資本剰余金	2,164,470	2,163,412
利益剰余金	3,278,172	3,497,754
自己株式	△49,308	△39,674
株主資本合計	6,770,448	6,998,605
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	86,022	95,181
退職給付に係る調整累計額	—	344
その他の包括利益累計額合計	86,022	95,526
新株予約権	3,503	1,902
純資産合計	6,859,973	7,096,035
負債純資産合計	17,183,721	18,062,797

① 固定資産

固定資産は、前連結会計年度末に比べ10.9%増加しました。これは主として、西東京FSセンターの新設等により、建物及び構築物が771百万円、機械装置及び運搬具が330百万円、長期貸付金が241百万円増加した一方、建設仮勘定が611百万円減少したことなどによります。



連結損益計算書 (要旨)

単位: 千円

	第13期	第14期
	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
売上高	31,573,514	34,559,341
売上原価	23,890,595	26,578,010
売上総利益	7,682,918	7,981,330
販売費及び一般管理費	6,999,664	7,423,479
営業利益	683,254	557,851
営業外収益	80,227	89,187
営業外費用	55,277	41,607
経常利益	708,203	605,430
特別利益 ②	89,084	128,715
特別損失 ③	153,990	198,018
税金等調整前当期純利益	643,297	536,127
法人税等合計	242,782	206,632
親会社株主に帰属する当期純利益	400,515	329,494



連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当連結会計年度(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

単位: 千円

	株主資本					その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	1,377,113	2,164,470	3,278,172	△49,308	6,770,448	86,022	—	86,022	3,503	6,859,973
当期変動額										
剰余金の配当			△109,912		△109,912					△109,912
親会社株主に帰属する 当期純利益			329,494		329,494					329,494
自己株式の処分		△1,058		9,634	8,575					8,575
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						9,159	344	9,504	△1,600	7,904
当期変動額合計	—	△1,058	219,581	9,634	228,157	9,159	344	9,504	△1,600	236,061
当期末残高	1,377,113	2,163,412	3,497,754	△39,674	6,998,605	95,181	344	95,526	1,902	7,096,035

② 特別利益

当連結会計年度における特別利益の主な内訳は、保険解約返戻金28百万円、補助金収入100百万円などとなっております。

③ 特別損失

当連結会計年度における特別損失の主な内訳は、固定資産除却損(主に名古屋デリカフーズの新工場設計変更による支払済設計費用(建設仮勘定の除却損))39百万円、補助金収入に伴う固定資産圧縮損99百万円、低金利への借換えによる精算金46百万円などとなっております。

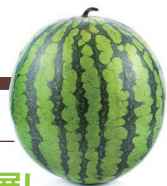
デリカフーズ株式会社

「外食FOOD TABLE 2017」に出展し、真空加熱野菜をPR

平成29年2月15～17日に幕張メッセで行われた、日本最大の「食」に関する商談展示会「外食FOOD TABLE 2017」に出展いたしました。当社からは真空加熱野菜を展示し、大根の野菜あかけやグリル野菜のサラダなど、調理例をご紹介します。ブースを訪れた方

には試食もしていただきました。本展示会には9万人※以上が来場し、当社の新商品である「真空加熱野菜」の魅力のアピールすることができました。

※前回実績



東京デリカフーズ株式会社

オーガニック・エコフェスタ2017で栄養価コンテストの分析を担当

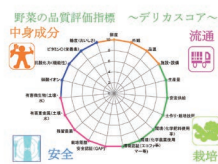
平成29年2月25日に徳島県で開催された農業技術者会議「オーガニック・エコフェスタ2017」。当社グループの高い分析能力が評価され、この会議の目玉企画である「野菜の栄養価コンテスト」に出品された全ての野菜(66品目387検体)の栄養価分析を、東京デリカフーズ(株)が受託いたしました。



東京デリカフーズ株式会社

野菜のチカラを見える化する「デリカスコア」が高い評価を集める

デリカスコアとは、デリカフーズが独自に開発した野菜の品質評価指標のことです。このデリカスコアが、産業競争力懇談会(COCN)や、経済産業省地域経済産業グループ、農林水産省経営局農業データ活用ガイドブック2017で「優れた民間の規格」として取り上げられました。



西東京FSセンターも順調に稼働中

2016年5月にオープンした西東京FSセンターは順調に稼働しております。生産を開始した真空加熱野菜も外食を中心に高い評価をいただいています。

大阪デリカフーズ株式会社

茨木工場でISO22000を取得

大阪デリカフーズ(株)茨木工場で、HACCPの食品衛生管理手法をもとに安全な食品提供を可能とする食品安全マネジメントシステムの国際標準規格ISO22000を平成29年3月に取得いたしました。



産地レポート vol.8

デリカフーズに野菜を納入していただいている生産者のみなさんをご紹介します。
株式会社 指宿やさいの王国 [鹿児島県]

鹿児島県指宿市山川大山



デリカフーズとお取引を始めたのは7年前。農業に対する考え方や将来の展望が一致したことがきっかけです。「指宿やさいの王国」では若い農業者を積極的に受け入れ、農業の新たな担い手の育成にも取り組んでいます。



“南九州一の野菜法人”を目指し、日本の南国で安心・安全な野菜を生産。

天然の砂むし温泉で有名な鹿児島県指宿市。年間平均気温が約19度と温暖な気候のこの町に「株式会社指宿やさいの王国」があります。ジャガイモからトウモロコシ、オクラなど幅広い種類の野菜を生産している中で、特に力を入れているのがキャベツとレタス、そして玉ネギ。もともとは父親が青果の収果事業を行っていたのですが、次第に生産にも携わりたいという想いが強くなり、13年前から野菜を栽培しています。

最もこだわっているのは土作り。国産の有機肥料を使用し、ミネラルなどを含んだ土壌改良を行うことで、安心・安全

でおいしい野菜ができあがりました。また、雑草対策にも工夫して取り組んでいます。畑に雑草が生えると、病気や虫が増える原因に。ここは気温が高いので伸びるスピードも速く、畑の場所によって種類も異なるため苦労しています。それでも除草剤を使わないよう、こまめに抜いたり草に強い野菜を植えるなど、試行錯誤の毎日です。

今後の目標は、南九州一の野菜法人になること。これからもデリカフーズを通じて全国においしい野菜を届けていく予定です。